Alcoholics Anonymous

こちらAA

専門家向けニューズレター

〒100-8692 東京都中央郵便局　私書箱９１６

1999年 No. 1
ＡＡ日本常任理事会
広報委員会

発行所　ＪＳＯ　ＡＡ日本ゼネラルサービスオフィス　〒171―0014東京都豊島区池袋4―17―10土屋ビル4F
TEL（03）3590―5377　FAX（03）3590―5419

こちらＡＡ－専門家向けニューズレターの発刊に向けて

A類（ノンアルコホーリク）常任理事
岡崎直人
（国立久里浜病院ソーシャルワーカー）

今年度（1998年）のＡＡ全国評議会において、こちらＡＡという専門家向けニューズレターの発刊が承認されました。この専門家向けニューズレターの発行の目的は、ＡＡ自体の目的と同じで、まだ苦しんでいるアルコホーリクにＡＡのメッセージを運ぶことですが、方法としてはアルコホーリクに直接メッセージを運ぶのではなくて、アルコホーリクと接する機会の多い専門家向けにＡＡの情報を提供し、ＡＡを有用な社会資源として用いていただくことにあります。

わが国のＡＡはその誕生当初から、理解ある専門家の皆様のおかげで、ゆっくりとではありますが着実な歩みで発展を遂げてまいりました。そのことを示す興味深い調査が、最近行われましたのでご紹介いたします。それは「アルコール・薬物依存症者の医療福祉サービスとＰＳＷの関わり－ＰＳＷ全国調査より－」と題する調査報告で、国立精神神経センター精神保健研究所の清水新二さんと松永広子さんによって行われました。（「精神医学ソーシャルワークNo.37 1997年」に掲載されております）。この調査は1996年1月に全国のＰＳＷ（精神医学ソーシャルワーク）協会の全員1.582名を対象にした調査で、回答者は750名、47.6%の回答によっています。様々な調査項目の中でＡＡに関連しているのは「民間自助グループ・施設の認知と連携状況」というところで、この3年ほどでＡＡと「密接な関係あり」と答えたＰＳＷは11.6%、以下「紹介問い合わせ」32.5%、「見学・出席あり」15.5%、「聞いたことがあり」4.1%、「知らない」1.3%、「不明」5.1%となっています。

この回答を見る限りでは、ＰＳＷの間では、ＡＡについてかなり知れ渡っており、知らない人はごくわずかになったと言えるでしょう。また、ＡＡの認知度の大都市と地方の格差も、以前よりかなり縮まったと調査者は述べています。他の職種や領域でのＡＡの普及度の調査は知らないのですが、おおむね医療・保健・福祉の分野でのＡＡに対する認知度はこの調査と同様に高くなっていると予想されます。

その一方で、この調査数字ではＡＡと「密接な関係あり」と述べたＰＳＷは1割強の少数派で、1／3は「聞いたことあり」のレベルに留まっていることが示されています。実際にＡＡを使い、効き目を実感していただくことによって、この差を埋めていくことがＡＡにとっての大きな課題です。さらに司法関係や教育・産業衛生の領域でのアルコール問題の拡大と認識の深まりに応じて、ＡＡの有用性が認められ、専門家の皆様の理解と支援を必要とする機会が今後ますます大きくなると予想されます。

この時に当たって，新たに専門家向けのニューズレターを、初年度は年に２回とはいえ、発行できることは誠に幸いであると感じています。多くの専門家の方のＡＡとの関わりの中での経験を分かち合う場を提供することによって、苦しんでいるアルコホーリクに回復のメッセージが届いていくことを願っています。また、専門家の持つＡＡについての不思議（ＡＡは実に不思議なグループともいわれています〉や誤解を、ＡＡ流ですので模範解答を示すというより、「こんな感じかな」という答え方で解いていきたいと考えておりますので、専門家の皆様のご意見やご貸間をどしどしお寄せください。

ＡＡは今後も、従属はしないが協力は惜しまないなどの伝統を守りつつ、専門家の皆様と手を携えていくことを願っております．新しい専門家向けニューズレターをよろしくお願いいたします。なお、ニューズレターの名称は、以前ＡＡを紹介する記事で使われた「こちらＡＡ」が率直でスピーディーな印象があるので、受け継ぎました。

モデルミーティングいたします

専門家がＡＡについて一番手っ取り早く知る方法は何かといえば、お薦めはやはり実際のミーティングに出ることである。ＡＡは本やパンフレットなど印刷物もたくさん出版しているので、それらを読みこなして探求する方法もあるだろうが、難解？な印象を受けるかもしれない読み物よりも、実際のメンバーの生の正直な話に接するのを第一歩とし、その後から読書でＡＡの思想を深めていくのがよいのではないだろうか。

しかしＡＡのミーティングがそばでやっていない地域とか、なかなか時間外まで時間がとれないとかといった場合の、ミーティングに接する方法としてモデル・ミーティングがある。モデル・ミーティングは、出張ミーティングや出前ミーティングと呼ばれることがあるが、実際のＡＡミーティングを専門家の前で公開して行うやり方である。この他にＡＡメンバー数人がそれぞれの経験を語るスピーカー形式のメッセージというやり方もあるが、やはりライブのミーティングに出たという感じがするのはモデル・ミーティングである。

先日、山形県天童市で行われたアルコール関連問題学会でもモデル・ミーティングが持たれた。このようなときにはメッセージ活動に燃える老若男女ＡＡメンバーたち（若い人が若干少なかつたかな）が、今回も地元からも、東京を始めとした全国からも一〇名程度集まった。アルコール関連問題学会の出席者たちは、病院やクリニック、保健所の医師・保健婦・看護婦・ソーシャルワーカーが中心であり、はじめは他の分科会の終了前であつたので集まりは少なかつたが、途中から続々と出席くださり、三〇畳ほどの和室のお座敷は座布団も足りないほどいっぱいになつた 一時間ミーティングで三〇分は質疑応答（ＡＡではよくQ&Aなどと言う）の予定であつたが、ミーティングの時間がオーバーしてしまった。最後にＡＡのパンフ一式を資料としてお渡しした。

もし、皆様の地域でＡＡのモデル・ミーティングを経験したいという要望があれば、ＪＳＯまたは各地域セントラルオフィスまで連絡いただければ、ご希望にお答えしたい。もちろんＡＡであるので費用は一切かからない。

ＪＳＯは　専門家の方々のご支援とご理解で、「まだ苦しんでいるアルコホーリク」にメッセージを運び続けることができ、感謝いたしております。お陰様でサービス業務が増え、以前のオフィスでは手狭になりましたので、次のところに移転しました。今後も変わらぬご利用と、新しき出会いをお待ちしております。

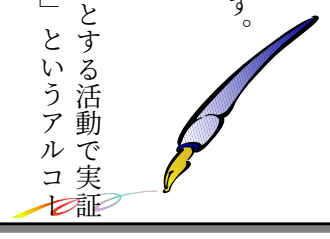
平成10年7月1日より

新住所 〒171-0014 東京都豊島区池袋4-17-10　土屋ビル４Ｆ　ＴＥＬ（０３）３５９０－５３７７　ＦＡＸ（０３）３５９０－５４１９

地域の中での回復を

笹隈みさ子
（弁護士）

この文は単なる個人的雑感であり、ＡＡの見解を示すものではないことをお断りします。



アルコール依存症は地域で回復する

「アルコール依存症は病気である」ということが回復者を中心とする活動で実証されるようになつて久しい。しかし、「治療すれば回復する病気」というアルコール依存症の理解は、まだまだ一般的ではないようだ。

アルコール依存症からの回復というのは、「飲まないで生きる」ことである。だから依存症者は病院の中や閉鎖的な施設の中では回復することはない。そこから出て、地域の中で回復していく．その大きな手助けになるのが地域で行われているＡＡミーティングである。併存症者の回復にとつて、自助グループＡＡ（アルコホーリクス・アノニマス）とそのプログラムが効果的であるということは近年各方面で認められるようになつてきた。病院やリハビリ施設で、ＡＡの十二のステップを治療の基礎として活用し、早期に地域のＡＡグループにつながるような治療方法をとるところも増えている。社会福祉事務所、宿泊施設、保健所等も地域の中の回復にとつて大切な役割を担うようになつてきている．

回復についての理解

地域の中での生き生きとした回復の経験が伝えられるためには、ＡＡの地域のグループのミーティングやメッセージが「経験と力と希望を分かち合う」（ＡＡ日本ゼネラルサービスオフィス「ＡＡとは何か」序文）ものとなるようＡＡ自体の活動が進められることが大切である一方、専門家・関係者のアルコール依存症への理解の深まりと広がりが必要不可欠である。

私が横浜でＡＡと出会った一九八〇年代のはじめ頃、ＡＡの方法による回復の事実に誘発されたケースワーカー、施設職員、看護婦、医師などが集う勉強会があつた。そこで、回復の道を歩む依存症者本人の話を聞くこともできたが、さらに熱心な関係者らはＡＡのオープン・ミーティングやステップセミナー等にも自ら足を運んでアルコール依存症とその回復について理解を深めていったと思う。

ＡＡ日本サービスオフィス翻訳発行のパンフレット「専門家へのメッセージ」は、アメリカのアルコール依存症に関する医学界の元会長スタンリー・ジトロウ博士の『アルコール中毒について学ぼうとするものは、まずアルコール中毒者に会わなければならない。…そしてわれわれは（病院で待つだけでなく）アルコール中毒者たちのいるところへ出かけて行かねばならない。われわれは、ＡＡミーティングで、アルコール中毒者たちを見、彼らの話をきき、彼らと共に感じることができる。…これこそ、この病気についての知識と理解に導くものである』という言葉を引用して、『ＡＡのオープンミーティングに行くのがＡＡのあり方とその力を理解するのに一番いい方法である』と述べている。

先日、日本でのＡＡプログラム定着に大きな力を発揮した援助者（依存症本人）が、『言葉を信じません。足を信じます』と話すのを久しぶりに聞いたが、これは本人の回復の過程だけでなく、関係者の理解についてもいえることだと感じている。

刑務所の中へのＡＡメッセージ

仕事上、特に刑事事件（殆ど国選弁護）では、刑法上斉任能力が問題になるかどうかにかかわらず、アルコールに問題がありそうだなという人に出会うことが少なくない。飲酒がらみの事件で刑務所を出てから数カ月以内にまた逮捕ということを繰り返している人もいる。裁判で「酒をやめます」などと決意を述べることもあるが、実際には「やめようと思えばやめられる」「飲み過ぎなければいいのだ」と本人がアルコールの問題を　認めていない場合が多い。刑務所の中にはこのようなアルコール依存の問題を抱えた人が相当数いるものと推測される。彼（彼女）らは、アルコールから隔離されて、厳しい管理の下で受刑生活をし、矯正教育を受けた分だけ一層飲酒への強迫的欲求を募らせて、再びアルコールが自由に手に入る世界に「元気で」戻ってくるのではないだろうか。

最近回復の道を歩き始めているＡＡのメンバーが、刑務所の中の受刑者に回復のメッセージを伝える小さな試みをしている。自分の経験を話し、仲間として一緒にやろうよと伝える活動である。

アルコール依存症は、刑務所の中にいる受刑者であつても、精神病院に入院している人であつても、道路で寝転がっている男であつても、生活保護費を酒代に変えて肝臓を悪くしている人でも、毎日出勤して管理職として働きながら自宅では家族に包丁を突きつけて暴れる人であつても、有名人であつても、専門家といわれる人であつても、若くても、妻があつても、夫があつても、ひとりぼっちの中年であつても．同じ病気であることに変わりはない。飲まないで生きている仲間の存在を知ることは、どんなアルコール依存症者にとつても回復の第一歩だ。刑務所の中で伝えられた回復へのメッセージが小さな種としてこれを受けた人の中に生き残ると酷な環境の中で死ぬこともあるだろうが、生き延びていつか条件ときっかけがあれば芽を出すこともあるだろう．刑務所の側でも「効果」を即断することなく、見守っていただきたい．

ただ、刑務所は法律に基づいて刑を執行する場所である。そこへのメッセージ活動には日本の現行制度上大きな制約があることは避けられない。ＡＡの活動の歴史も長く、刑罰やその執行のあり方が日本とは異なるアメリカやカナダでは、矯正施設の中にＡＡグループがあり、外部からボランティアのＡＡメンバーを迎えてミーティングが開かれていることはよく知られている。それでも、矯正施設の中のＡＡミーティングと地域の中で開かれるミーティングには大きな隔たりがある。当然矯正施設とＡＡの間に問題が生じることはあり得るし、場合によってはＡＡの側からＡＡプログラムの中止を申し入れることもあるようだ。あくまでＡＡの基礎である十二のステップ、十二の伝統やガイドラインを大切に守るためである。それぞれの立場を相互に確認し、尊重することを前提にしつつ、実状にあわせて可能な脇力関係を維持する努力が重ねられているのだと思う。

日本では、刑務所の側から見ても、ＡＡの側から見ても、相互の立場を理解する模索がまだ始まったばかりである。「ゆつくり、あせらず」何ができるのか、時間をかけて学ぶことが双方に必要なことだと考える。

刑務所からでてくる人のために

ＡＡのメッセージは、刑務所だけでなく、保護観察所、保護司、更生保護施設等にも伝えられるようになつてきており、一方、これらの関係者の中にもアルコール依存症に関心を持つ人が少しずつ増えてきていることは心強い。これらの関係者がかかわる依存症者は社会に出て歩き始めているのだから、「酒をやめたい」　という願望を持っているのであれば、地域のＡＡミーティングに参加したり、ＡＡの方法を基礎とするリハビリ施設に適所する事が可能な場合もあるだろう．東京や横浜などの更生保護施設で、ＡＡの方法を活用する実践がなされた経験も報告されているようだ。

つい先日、回復の道を歩む依存症者の話を聞く機会があった。大学で教える立場にいたがアル人ール依存症のため仕事を辞め、精神病院に入院したという人もいれば、刑務所四回、精神病院入院十三回、覚醒剤も使ったという人もいる。回復の道を歩みながら会社に勤め、定年を迎えたという人もいる。彼らはいずれも自分の回復とともに、他の依存症者の回復の手助けを今も続けているとのことだ。自分の経験をにこやかに語るその言葉に耳を傾けていると、「どんなアルコール依存症者も回復できる」というメッセージが私たち関係者にも伝えられているのだなあと改めて感じた次第である。

AAメンバーにとっての治療薬とドラック

アルコールの代用として薬を用いること、治療薬として薬を用いることについてのメンバーたちの体験と、ＡＡメンバーである医師たちのグループによる報告を紹介したパンフレット。

B6版28ページ
頒布価格　２５０円

44Q& A
（翻訳改訂版）

助けを求めているアルコホーリクはもちろん、家族や友人たちからよくたずねられるＡＡについての質問に、Ｑ＆Ａ形式で答えている。

B6版53ページ
頒布価格　４００円

JSO内 AA日本出版局

JSO内 AA日本出版局